

学位被授与者氏名	宗 昊南（しゅう こうなん）
論文題目	『似而非筆』研究——漢学、漢文を中心に
論文審査結果の要旨	<p>『似而非筆』は、章炳麟と同行した館森鴻はこの日本での旅の行程や見聞を記録した以外、章氏の詩を6編、日本漢学者との筆談文90余編を収録した。それらの詩と筆談文は、章炳麟の自伝や、『章太炎全集』などに殆ど収録されていなかったため、章氏思想と日本漢学の研究にとって、貴重な第一次研究資料であるだけに、本研究自体は自らオリジナリティをもつものである。また、本研究は大学院の授業で詳しく『似而非筆』各章を読み合わせたため、その内容について詳しく説明ができ、各章の筆談内容の解説と統計がきちんとできたのである。さらに、本研究の「まとめ」では六節に分けて『似而非筆』の価値、章太炎筆談文内容の分類と解析、文体の特徴を詳しく分析して論述した。本研究は今までの日中両国の章炳麟研究の空白を埋め、これからの研究に少しでも役に立てるものと思われる。</p> <p>ただ、研究者本人の研究蓄積が浅く、本研究の深化にはまだまだキャリア不足と否めない。これを改正することは、今後の研究課題になるのだろう。</p> <p>2023年2月9日、北九州市立大学北方キャンパス3号館320教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>